

## 2023\_0727「天使のはしご（写真）」日々の理科 3277号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

夕暮れ時に、太陽を隠した雲の隙間から、放射状に光の筋が見えることがあります。気象用語では光芒（こうぼう）といますが、俗に「天使のはしご」とも呼ばれます。天使のはしごは、毎日見られるわけではありません。太陽高度と雲の種類が重要なのです。

太陽高度が高すぎると、太陽光は大気をまっすぐに（最短距離で）進んでくるので、光線は強くなります。どんな雲がかかっても天使のはしごは見えにくいです。夕方になると、太陽光は大気層を斜めに入ってくるので、若干弱まります。そこに適当な雲があると、天使のはしごが見られるようになります。

高層雲（おぼろ雲）のような隙間のない雲ではだめです。逆に巻積雲のような隙間だらけの薄い雲でもできません。適度に厚みがあり、すき間もある雲…たとえば層積雲や積雲の残党のような雲が「適して」います。この日の雲は火焰状（かえんじょう）にくずれかかった積雲でした。

昔から「天使のはしごは吉兆」という伝説があります。この日も何かいいことがあるかな？と想着いたら、このあと寄ったコンビニでPayPayくじの2等が当たりました。伝説は正しいと証明されました。

(2023年7月下旬／群馬県高崎市)

